

捕獲装置 (pp.481-93)

命題十 (pp.481-4、全5段落)

・政治的権力＝国家装置の二極 (paras.1&2、「もう一度～」)

1. 「片目の神」(魔術師)：記号(捕獲、絆、結び目、網)
2. 「片腕の神」(法律家、司祭)：道具(条約、協定、契約、手続き)

→国家主権は両者の結合・補完関係によって構成される

・二極の「あいだ」に介入する戦争機械 (para.3「(2)もちろん～」)

1. 「片目の神」：「戦争機械を制度的な枠の内部に組み入れる」(p.481 下ll.14-5)
2. 「片腕の神」：「戦争機械を軍事制度とすることによって、国家装置に所属させる」(p.482 上ll.1-2)

→戦争機械の暴力性・非人間性：国家装置の二つの極が戦争機械を捕獲する以前くそれ以降

国家装置の労働の組織・体制の条件&前提として不具や死が秩序の最上層&最下層に必用とされる

・3つの具体例 (para.4「ここから～」)

1. デュメジル (1)

- a. 記号：一つ目の神オディオンによる<狼>の束縛
- b. 戦争機械：<狼>の警戒、力の保存
- c. 道具：ティル神による法的介入、契約の成立

2. デュメジル (2)

- a. 記号：片目のホラチウス・コレクスによるエルトリヤ軍総大将の魔術的な力での妨げ
- b. 戦争機械：総大将のローマ包囲決定
- c. 道具：ムキウス・スカエヴォラによる政治的介入、総大将の説得

3. マルセル・ドゥティエンヌ

- a. 記号：魔術的統治者(「真理を有するもの」)に対する戦争機械の相対的自立性
- b. 戦争機械：戦士階級の「同権性」、当方性空間
- c. 道具：重層歩兵改革(法的支配の完遂)

→「記号から道具への移行を必然的なものとして保障しているように見える」戦争機械 (p.483 下ll.4-6)

・二極間の移行の因果性による説明の不可能性と原国家の導入 (para.5「とはいえ～」)

1. 二極間の移行のステップは因果的に説明できないこと (三重の論証)

- a. 国家は戦争機械に先行するから、戦争機械は国家の発展過程を説明する単独の要因とはなりえない。
- b. あらゆる発展段階の国家にとって二つの極は本質的に構成的である
- c. 国家の二極の統一性はあらゆる段階において常に既に成就している

→「国家の起源についての主張はいつも同語反復となる」(p.484 上l.4) →原国家についての考察

命題十一——第一のものは何か？（全13段落）

・捕獲の第一のもの：帝國的or専制的なもの（paras.1&2「捕獲の第一の～」）

1. マルクスの「アジア的生産様式」

- a. 国家の成立過程：（国家に先行する）原始農業共同体の超コード化、「国家の記号体制」（p.484 下1.17）
- b. 私的所有の不在：「帝国という体制のもとではすべてが公的のものである」（p.485 下1.22-p.486 上1.1）

2. マルクス&チャイルドへの反論：「国家は何の介在もなく直接的に樹立される」（p.485 下1.8-9）

→「すべては、偶然に混合されたことから始まった」（p.485 下1.16-7）

・あらゆる種類の進化論の崩壊（para.s.3-5「進化論は～」）

1. ピエール・クラストルの2つの主張

- a. <原始的社会>とは国家形態を祓いのける反国家的社会である
- b. 国家の出現は還元不可能な断絶の結果である

→「いつでもいたる所に国家が存在した」（p.485 下1.1-2）→局地的、部分的な国家による原始諸社会の捕獲

2. コミュニケーションと国家：エクルチュール、言葉、言語、言語活動に国家は先行する

3. 歴史と国家：「歴史は<生成変化>の共時的な存在を継起的に翻訳するだけ」（p.487 下1.5-6）

4. 転倒した因果律

- a. 国家出現以前にも国家は存在している：国家が祓いのけられている
- b. 国家が実際に出現すると、国家があたかも先行する諸要因の帰結として出現したかのように現れる

・脱領土化の二つの形態&速度（paras.6-9「中央集権の～」）

1. (a)帝国or宮廷システムと(b)市民・都会システムにおける都市

- a. 首府としての都市：都市は宮廷や寺院が拡大したもの（東方世界 e.g.エジプト）
- b. 大都市としての都市：宮廷や寺院は都市が具体化したもの（地中海世界 e.g.ギリシア、カルタゴ）

2. (a)国家タイプの権力と(b)都市タイプの権力

- a. 内部的存立性、階層化された垂直体、禁止、抑圧、管理、制御、公務機関、点の集合の共振
- b. 横断的存立性、水平性、ネットワーク、交易、脱領地化、官職制度、点一回路の組合せ

→「だが市民の暴力としては、どちらの方が大きいなどと誰が判断できるだろう」（p.489 下1.4-5）

3. レヴィ=ストロースの原始社会の二つの閾

- a. 包括的で階層化した集落としての原始社会
- b. 切片化され平等な関係をもつ集落としての原始社会

・「都市による水平なメロディーラインと国家による和音の層」（p.490 下1.5-6）（para.10「このように～」）

1. 都市：都市の脱領土化<国家の脱領土化

2. 近代国家：国家の脱領土化≡都市の脱領土化

3. 資本主義国家：国家の脱領土化>都市の脱領土化（国家への都市の服従）

・社会形成およびその外的共存と内的共存（paras.11-3「われわれは～」）

1. 「われわれは社会的形成を機械状のプロセスによって定義する」 (p.491 下 ll.1-2)
  - a. 原始社会：祓いのけ、先取りするメカニズム
  - b. 国家社会：捕獲装置
  - c. 都市社会：極北作用
  - d. 遊牧社会：戦争機械
  - e. 全世界的組織：異質な社会形成の包括化
2. 外的共存：各プロセスがその他の力能を経過しうる
3. 内的共存：各プロセスがその他のプロセスを自分の力能にしたがわせることができる
4. 国際関係について：国際関係は社会形成を同質化するか？  
→それは社会形成を同形化するが等質化せず、むしろ異質性を残存させ、要請しさえする。